

## &lt;校務利用&gt; ① スクリプトの生成による業務の簡略化

## ●目的

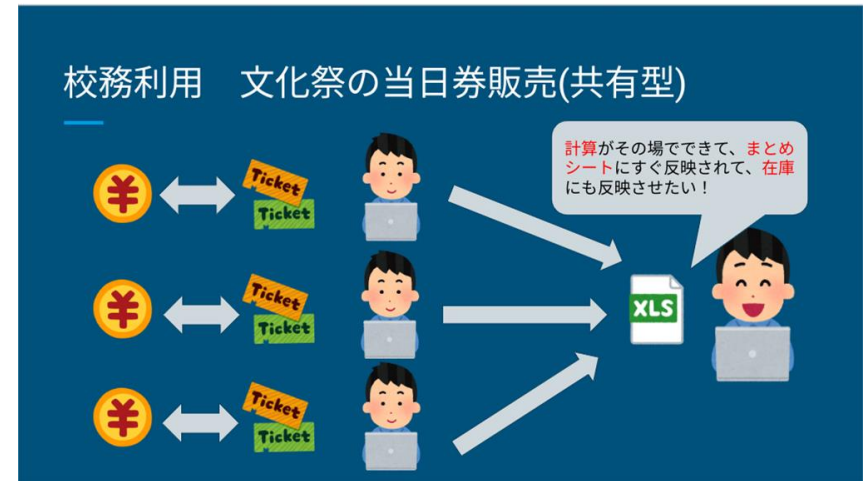
文化祭の当日に販売する食券の共有型データベースを構築し、効率的に在庫管理し、担当者の集計作業を軽減する。

## ●活用の詳細

1. Googleスプレッドシートでデータベースを作成
2. 入力フォームからデータベースへ転記する  
Google App Scriptのコードを書くよう、ChatGPTに指示
3. 出力されたコードを貼り付け、マクロが適切に動くまでChatGPTに再度指示

## ●成果や課題

- マクロ作成やコーディングの経験のない職員でもスクリプトを完成させることができた。
- 文化祭当日、職員や生徒はリアルタイムで変わる在庫状況を確認しながら食券を販売することができ、業務がスムーズになった。
- 文化祭終了後にはデータベースが完成しており、担当職員の事後作業が軽減した。
- 旧職員が作成したマクロ付きExcelファイルやAccessのコードが現在使用できる教員がおらず活用されていない実情があるが、これを改良することで働き方改革の一端を担うことが期待される。



ChatGPT  
指定された制約条件に基づいて、Google Apps Scriptを使用してデータを転記し、シート上で指定された作業を行うコード例を以下に示します。

```

javascript
function transferDataToDatabase() {
  var inputSheet = SpreadsheetApp.getActiveSpreadsheet().getSheetByName(
  var databaseSheet = SpreadsheetApp.getActiveSpreadsheet().getSheetByN

  var customerId = inputSheet.getRange('C2').getValue();
  var itemNames = inputSheet.getRange('A4:A23').getValues();
  var itemValues = inputSheet.getRange('C4:C23').getValues();
  var applePieNames = inputSheet.getRange('F4:F23').getValues();
  var applePieValues = inputSheet.getRange('H4:H23').getValues();
  var paymentItemNames = inputSheet.getRange('J4:J6').getValues();
  var paymentItemValues = inputSheet.getRange('K4:K6').getValues();

  if (customerId) {

```

Message ChatGPT...